

クリスマス・イヴ

妻は泣いていた

生まれたての赤ん坊と一緒に泣いていた

流感のため隣室に隔離されている五歳の長女も大声を挙げて泣いていた

この

クリスマス・イヴの

皆が少しは楽しげに過ごそうとしているひととき

わが家では親子三人が泣いている

妻は赤ん坊が泣きやまないといって泣き

長女は母親がかまってくれないといって泣き

赤ん坊はうまい育て方を知らぬ母親に抗議して泣いている

私は電灯をつけ

ストーブをたき

お土産を開いて

雨戸を閉めた

妻のすすり泣きは

私への抗議でもあるだろう

赤ん坊が浅い眠りについてからも続いていた

想えば互いに辛い四年間だった

四年前私は故あって町の議員になった
党の支部をつくり書記長にもなった
いらい四年間

私は片道二時間の東京への通勤の外に
ママゴトのようながら

党務と政務を兼ねて働かねばならなかった

休みがちの僕に職場の目も厳しくなった

日曜も祭日もなくなり 睡眠時間は三、四時間になった

家族で食卓を囲むこともなくなった

わが家はいつしか母子家庭になっていた

四年前まで わが家は実に楽しかった

一七〇坪の庭に

梅 桃 桜が次々に咲いた

柳が風にそよぎ 柿 栗が繁った

四季 花々が咲き乱れ

ひょうたん池で蛙が鳴いた

三本の柿が実ると 私が登ってもぎり

長女が拾い

妻が樽漬けして渋を抜き 近所にも配った

だが 今は梅も枯れ 雑草が茂り 池も涸れた

いやだ こんな暮らしはもう終わりにしよう

また皆で楽しく食卓を囲める

ふつうの暮らしをとり戻そう

僕も四年間市民的義務のため頑張ったが

勤めと党務政務の両立はとてもムリ

町長やK代議士はぜひ政治家になどというが

そんな気はサラサラない

痛いほど分かったが

政治を論ずることと政治をやることの間には天地の距たりがある

政治をやる人を僕は半分尊敬し 半分軽蔑する

政治はすばらしいが

みにくくもある

そのみにくさに我慢できぬ私は

とても政治家には向かぬ

あのドスの効いた笑い声など

とても僕には真似できない

誰彼となく手を出して握手を求める

あの厚顔ぶりも僕は好かぬ

オモテとウラの使いわけ

笑って政敵を刺すあの冷酷さ

抱負経倫で政治家になれる土壌は

この日本には ない

Tさんへの義理から始まった四年間

苦しかったが 得難い経験でもあった

だが もうおさらばしよう

僕の本命はやはり自由な研究者暮らした

あした早速 Tさんと話をつけよう

妻はようやく静かな寝息になった

私は合掌しながら

ひとりイナリ鮫を口に運んだ

(一九六七・二)